



▶ロボットのプログラミングをする子どもたち。答えが無数にあるロボット作りは、創造力を高める



優れた技術力を若者へ。「ものづくりのまち」の新しいページをつくりたい

ながい まさる  
長井 大 さん

(株)ナガイ代表取締役社長。令和4年設立のながおかメイカーズ・クラブの代表。ミライ工長岡を拠点に、ものづくりをする人(メイカー)が集い成長するコミュニティの創出を目指す。

**市長** やはり女性の視点が入ると変化につながりますね。

**市長** 仲間の存在は力になりましたか。

**佐藤** 食育事業やマルシェ、研修や交流会など、仲間とやりたいことを実現できるようになりました。パッケージのデザインを工夫しようとか、おしゃれな作業着があれば、テンションが上がるね、などと意見交換もします。

**市長** すぐにもできそうです！長岡の企業には、県外の人がびっくりするすごい技術者がたくさんいます。その技術を子どもや若者に見せたい。子どもたちのロボット作りに関わり始めた頃の教え子の中には、ロボカップの運営に協力して今の子どもたちに指導してくれる人もいます。育つ

③ 情報通信技術や地域資源のガスを活用した次世代型園芸施設



◀大人向け絵本講座。絵本を通じて自分の気持ちを伝える機会を届けている

温かい言葉で育った子どもは、温かいコミュニケーションができると思います

ひろかわ かよこ  
廣川 佳予子 さん

長岡市教育委員。絵本と人が出会う場、人と人がつながる場をつくりたいと書店「リトルブックス」を開業。絵本セラピストの資格を持ち、児童養護施設や保育園などでの絵本講座のほか、大人向けの絵本セラピーなども開催している。



出会いが可能性を拓く

**市長** 陸上を始めたきっかけは何ですか。

**松田** 姉たちがスポーツをしていて、自分もやりたいと思いました。リハビリで通っていた長岡療育園の園長先生が「障害があっても活動の制限はない。積極的に体を動かさない」と言ってくれました。本格的に競技を始めたのは、新潟市で参加した陸上教室の先生の勧めです。

**市長** 背中を押してくれる人がいたんですね。

**松田** 新聞で私の記事を見た障害児の親御さんから、子どもに陸上をさせたいと連絡が来たことがあります。走る自分の姿が、誰かの気持ちを動かすきっかけになったことはうれしかったです。

**市長** 市もパラスポーツの普及を進めています(写真①)。長岡の子どもたちに松田さんの体験をぜひ話してください。廣川さんは子どもとの対話の手段として本を選ばれた。どんな思いがありますか。

**廣川** 私は、子どもたちに本の読み聞かせをするとき(写真②)、言葉との出会いを大切にしています。子どもたちが幼少期に出会う絵本に出てくる言葉には、人を傷つける言葉がありません。柔らかくて温かい言葉ばかりなんです。親御さんや大人が絵本を通じてその言葉を子どもたちに渡すことで、子どもたちは大人になったときにも、温かい言葉でコミュニケーションができるんです。言葉は思考をつくり、思考が行動をつくる。どんな言葉と出会うかは、子どもたちの将来をつくる大事な基盤になります。

多様性から生まれる変化



① パラスポーツ普及の一環で車いすバスケットボールに挑戦する越路西小学校の子どもたち  
② 子育ての駅「てくてく」での読み聞かせ。市内13カ所の子育ての駅では、子育て講座・相談などで親子をサポートしている

